

# ドクター内田のジャズは乾杯

~22~

昭和三十八年四月、「新世紀音楽研究所」の三回目の名古屋発表会が開かれ、まだ若かった山下洋輔、日野皓正ら

が参加したが、同じ年の七月、納屋橋にヤマハビルが完成した。それより以前、日本楽器は同じ広小路でも栄寄りの丸善ビルのすじ向かいにあった。

たまたま清水の病院への赴任が決まった僕は、ヤマハが発売して好評のポータブルプレーヤーを持って行きたかったが、高価でとても手が出ない。何度も栄の店先に足を運んでショールームのぞき込んでいる変な男を見かねたのか、優しそうな店員さんが声をかけてきた。

あわてて身分を告げると、「よくお見かけして存じ上げております。私が責任持ちますから長期の月賦でお持ち帰りになって結構ですよ。」

良かったなあ。格別心掛けた良いわけでもないのに、いつもすてきな人に会えるなんて本当に運がいいんだね。こ

## 入場無料の YJC 発足

それが伊藤公治さんのおつき合いの始まりだが、年を経て開業した僕は、間もなく、会うたびに杯をくみかわす仲間になった。

新たにオープンしたヤマハビルのレコード主任になってやる気いっぱい伊藤さんは YJC は、当初 CBC の谷田



「ヤマハジャズクラブ」の創設に力があった伊藤公治さん

「ジャズに力を入れて売り場に特色をつくりたいんですが、名古屋のマーケットがつかみにくいんです。愛好クラブを作り月例レコードコンサ

部アナ(現FM愛知)を解説に新譜紹介をプログラムとして、二回目を終わった時、僕は伊藤主任にかねての考えを率直にぶつけてみた。

「ジャズは生で聴くのが一番だし、これからはレコードコンサートだけではお客さんを集めにくいんじゃないかしら」

「でしたら、ヤマハジャズクラブ」でもして。会長は、もたらん先生ですよ。義理があるからいやとほ言えないが、とてもうれしいお話だね。そうしたいと思いましたが、YJCの目的からいって入場料とりたくないんですよ。経費はどうしますか？」

(内田 修)